

平成30年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、本校生徒の実態を踏まえて、魅力ある定時制通信制教育の推進に努めてきた。さまざまな問題を抱えた生徒たちが、卒業後社会人として自立し、逞しく生きる力を身に付けるため、今年度も引き続き、生徒の実態に即した組織的で効果的な指導体制の充実を図るとともに、個々に対応したきめ細かな支援を行った。今年度は6つの重点課題の改善に取り組んだ。

学習活動（1）では重点課題「学習習慣の確立と単位修得」として、通常の学校生活に困難を抱える生徒が多く、学習習慣が身に付いていないため基礎学力の定着度が低いという現状を踏まえて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を強化し状況把握に努め、効果的な指導の在り方を工夫した。

学習活動（2）では重点課題「学校図書館の利用促進」として、一人当たりの図書貸し出し数が2年連続で減少しているという現状を踏まえて、オリエンテーションの実施、「おすすめ本」リストの作成・紹介、年2回の「読書会」開催、電子掲示板の有効活用等に努めた。

学校生活（1）では重点課題「生徒指導体制の確立」として、登下校の時間が各課程で異なり、4課程が連携して指導できる体制が不十分という現状を踏まえて、「さわやか運動」において、朝の登校時から夜間生徒の下校時まで、4つの時間帯を設定し関係課程の教員が協力して挨拶や身だしなみ、交通安全等の声がけに取り組んだ。

学校生活（2）では重点課題「健康診断後の治療率向上」として、健康診断後の再受診率や治療率が低いという現状を踏まえて、「保健だより」を毎月発行し健康の保持増進のための意識向上に努めた。また、長期休業前や保護者懇談会時には、健康診断結果や治療カードを配付し再受診や治療を促した。

進路支援では重点課題「進路実現をめざす支援活動」として、進路決定の際に知識や情報が不足している生徒が多い、進路意識や学力などに大きな個人差があり一斉の進路学習は難しいという現状を踏まえて、3課程合同の大学等訪問を中心にした進路研修、理系進学希望者向けの講義、企業より講師として卒業生を招き講演いただく就職教室、「ものづくり女子による出前講座」等を実施し、進路意識の向上に努めた。

特別活動では重点課題「生徒が主体となる自主的な特別活動の推進」として、日程や校時の相違から各課程間の交流の機会が極めて少ない、また、生徒の多くは自主性に乏しく集団活動を苦手とし、学校行事の参加に消極的であるという現状を踏まえて、4課程合同の学園祭生徒実行委員会を中心にした学園祭の運営、バルーンゲートやメッセージボードの作製、運営に関わるスタッフの公募等に努めた。

7 次年度に向けての課題と方策

今年度も生徒の実態を踏まえた「個に応じた学習活動」「社会的自立に向けた能力を身に付ける」ための支援に重点を置いて取り組んできた。今後は、学習指導、生活指導、進路指導等、あらゆる場面において、担任、年次、授業担当者はもちろん、他の課程の教員や保護者と必要に応じて情報や指導・支援方針を共有し、個別指導に対応できるようにしていきたい。さらに、生徒の自立につなげるためにも地域や外部機関との連携を強化することが重要である。

今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成30年度 雄峰高等学校アクションプラン No.1		
重点項目	学習活動 【その1】	
重点課題	学習習慣の確立と単位修得	
現 状	- 生徒の家庭環境や育成歴に幅があり、生活力・体力・学力の格差が大きい。 - 通常の学校生活に困難を抱える生徒が多く、学習習慣が充分身に付いていないため基礎学力の定着度が低い。また通信制では、健康面や社会性で問題があったりするなどの様々な経緯で生徒が入学・転入・編入している。 - 専攻科は、生徒の実態が多様であり、知識・関心の度合いに幅が大きく、一斉指導が難しい。実習において作業工程をしっかりと理解できない生徒が増加している。 - 近年の前期における単位修得率は、定時制・昼間単位制が 75%、夜間単位制 73%、通信制が 70%となっている。昨年度、専攻科の単位修得率は 99 %であった。	
達成目標	【定時制】 単位修得率 80%以上 (昼間単位制・夜間単位制 共通) 【通信制】 単位修得率 75%以上 * 定時制・通信制は前期の集計 【専攻科】 単位修得率 100% * 専攻科は学年末の集計	
方 策	【定時制】 - 出席率を向上させるため、健康面や学習状況に応じて教員間の連携や保護者への連絡など早期に対策を行う。 - 年次担任を中心に生活指導や進路相談を充実させる。 - 不登校傾向などの問題を抱える生徒に対してカウンセラー等の専門家や外部機関と連携を強化し、単位修得や進路目標を意識づける。 【通信制】 - 進路指導部・総年次主任・担任が連携して、卒業に向けた単位修得が順調に進むよう受講指導を工夫する。 - スクーリングや個別面談を通して生徒の学習状況把握に努め、学習への適切な助言や添削を行うことで自学自習の意欲向上と定着を図る。 - 科目担当者によるレポートの提出前確認を受けることを奨励し、科目担当者との面談をより充実させ、達成度に応じた学習指導をきめ細かく行う。 - 学習活動が円滑に開始できるように、ガイダンスやホームルーム活動を通じて不安感や疑問を解消しながら学業に取り組めるよう支援する。 【専攻科】 - 教員間で各生徒の生活面や学習状況を把握し、効果的な指導法を工夫する。 - 実習では予習と復習の時間を設定し、学習効果と実技の定着度向上を図る。	
達 成 度	【定時制 昼間単位制】 単位修得率 78.2% (前期) 【定時制 夜間単位制】 単位修得率 80.3% (前期) 【通信制】 単位修得率 73.0% (前期) 【専攻科】 単位修得率 98.0 %	
具体的な取組状況	【定時制】 - 出席率を向上させるため、年度始めの集会等を通じて生徒に呼びかけたり、出欠状況をこまめに確認し、教員間の連携をきめ細かく行ったりするなどの対策を講じた。欠席が続く兆候を早期に掴み、保護者への連絡と連携した指導に取り組んだ。 - 不登校傾向など問題を抱える生徒に対してSCやSSWとの連携を強化し、より細かな状況把握と効果的な指導のあり方の工夫や実践に取り組んだ。 【通信制】 - 進学希望者対象の時間割作成例を校内広報誌に掲載し、生徒に時間割のモデルを示すことで作成を円滑にした。 - 各科目担当者や担任を中心に、きめ細かくレポート作成に係わる個別面談を行い、学習状況や達成度に応じた適切な助言を行った。 - 各科目担当者を中心にレポートの提出前点検を奨励した結果、多くの生徒が点検を受けた。今年度は単位修得率が前年同期と比較し 1.6 %上昇した。 - 転編入生や復活生に対して、新入生向けガイダンスを実施し、学校生活への不安解消に努めた。必要に応じて担任や科目担当者からも助言をしてもらった。 【専攻科】 - 科目担当者と担任が学習状況の連絡を密にし、遅刻や欠席が多い生徒へ助言を行った。 - 学習面や生活面が気になる生徒については保護者へ連絡するなどの早期対応を行った。 - 映像による予習・復習時間を設定し、自学自習やグループ学習の実施により、学習効果の向上と実技の定着を図った。	
評 価	C	昨年度の単位修得率【昼】76.7%【夜】83.0%【通】71.4%【専】99.0%と比較し、今年度の達成目標と照らし合わせると、全体としては現状維持に留まる。
学校関係者の意見	- 不登校傾向や学習に困難を抱える生徒への粘り強い支援と指導を行ってほしい。 - 未履修や未修得となる要因を分析し、対策を具体的に講じてほしい。 - 学びの楽しみと達成感の積み重ねを通して生徒の特性を生かした育成を図る必要がある。	
次年度へ向けての課題	- 授業担当者と生徒情報を共有し、学習指導面の対応を学期当初に行う。 - 各課程教員が連携し、不登校や学習障害などの支援等、個別事情に対応する。 - 単位制高校として「学校外における学修」等をさらに活用できる環境整備を進める。	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

平成30年度 雄峰高等学校アクションプラン —No.2—		
重点項目	学習活動【その2】	
重点課題	学校図書館の利用促進	
現 状	・昨年度、図書館に行ったことのある定時制生徒の割合（1月のアンケート結果）は65.2%で、達成目標の70%に達しなかった。 ・図書貸し出し数は平成28年度が1.38冊／人、平成29年度が1.25冊／人であり、2年連続で減少している。 ・読書習慣のある生徒は限られ、教科書以外は読んだことのない生徒がいる。 ・夏期休業中に読書感想文の課題を出し、図書館の利用を呼びかけているが、利用する生徒は限られている。	
達成目標	図書館に行ったことのある定時制生徒の割合 70%以上	
方 策	・図書館だより「本の森」や「おすすめ本」リストを電子掲示板や学園祭で紹介し、読書への興味・関心を高める。 ・年2回以上「読書会」または「朗読会」を開催し、本に触れる機会をつくる。 ・図書委員主体で図書館へ行く呼びかけを行い、図書館をあまり利用しない生徒へアプローチを図る。 ・教科や学年、進路等と連携し図書館の利用を呼びかけたり、図書館オリエンテーションを実施したりすることで、生徒に図書館を知ってもらう機会をつくる。 ・生徒アンケートで書籍や雑誌などのニーズを把握し、生徒が行きたくなる図書館をめざす。 ・図書館を利用していない生徒の理由を探り、対策をたてる。	
達 成 度	図書館に行ったことのある定時制生徒の割合 72.6% （11月アンケート結果）	
具体的な 取組状況	・月1回発行する図書館だより「本の森」の中で、新着図書案内や図書館行事を紹介し、生徒が図書館へ出向くように仕向けた。 ・5月に2回、新入生オリエンテーションを実施し、新入生に図書館の利用を促した。 ・図書委員が「おすすめ本」リストを学園祭で紹介し、一般生徒が読書への興味・関心を高めるように工夫した。 ・年2回「読書会」を開催し、参加した生徒が日本文学の代表的な作品に触れることが出来た。 ・学園祭で行った「ブックマーケット」では、図書委員が校内の各教室に案内を掲示したり、呼びかけたりすることにより、一般生徒が図書館へ関心をもつように活動した。 ・電子掲示板で、「読書感想文コンクール」の審査結果や「読書会」等の図書館行事を案内した。	
評 価	A	達成した。
学校関係者の 意見	・激動の時代、目まぐるしく変わる社会を見据えながら、これからの自分の生き方を模索できるような本を読むようし向けてほしい。 ・毎月読書会を開き、先生方や友達と意見交換するとより楽しく効果的である。 ・読書友達とはいろんな話ができ、思春期の子供たちには心の拠り所となる。さらに読書好きになり易い。	
次年度へ 向けての 課 題	・読書会の課題図書を生徒がもっと親しみやすく読みやすいものにしたり、進め方を工夫したりする。 ・生徒が借りてみたい本をアンケートなどで調査したり、教科や年次、進路指導部と連携したりして図書館の利用を呼びかける。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成30年度 雄峰高等学校アクションプラン —No.3—		
重点項目	学校生活 【その1】	
重点課題	生徒指導体制の確立	
現 状	・本校は、4課程を有することから、一体感を持った生徒指導が難しい。登下校指導については、近年の取り組みにより連携が取れるようになってきているが、生徒の登下校時間が課程によってまちまちであり、普段はそれぞれの課程が独自の校則に基づいて指導している。そのため、4課程が連携して指導できる体制が不十分なところがある。 ・定時制（昼間・夜間）では制服が定められているが、通信制・専攻科は私服登校であるため、一般来校者との見分けがつきにくい。他課程の職員は声かけがしにくい状況にあり、課程を越えた声かけや指導が難しい。	
達成目標	さわやかな挨拶実施率 70 %	
方 策	・朝の登校時は昼間・通信・専攻科教員が、夕方の昼間の下校時と夜間の登校時には、昼間・夜間教員が、夜間の下校時には夜間教員が協力して指導にあたる。 ・挨拶、身だしなみ等の声かけを行い、登下校時の生徒指導全般について課程を越えて指導にあたることによって、指導体制の充実に繋げる。 ・春、秋に実施の「さわやか運動」期間および登下校指導強化週間を設ける。 ・PTAや地域の方々にも参加を呼びかけ、活動の充実を図ることで、保護者や地域の方々にも生徒の状況を把握してもらう。また、生徒が近隣の目を意識することで、学校周辺での問題行動の抑制に繋げる。 ・挨拶に関する意識調査を前期1回、後期1回行う。	
達 成 度	さわやかな挨拶実施率 53.9 %（校内）	
具体的な 取組状況	・春と秋それぞれ約一週間実施した「さわやか運動」を含め、前期2回、後期1回の合同登下校指導には、各課程の生徒、教員、保護者が協力し活発に取り組んだ。 ・朝の登校時から、夜の夜間生徒下校時まで、4つの時間を設定し、関係課程の教員が協力して指導にあたった。 ・挨拶、身だしなみ、交通安全、不審者への注意等の声かけを行った。 ・昨年度の学校関係者の意見を受け、雄峰高校の生徒だけでなく、通行する一般の方々にも声かけを行った。 ・9月に登下校指導強化週間を設け、声かけを行った。 ・挨拶に関する意識調査を前期1回、後期1回行った。	
評 価	C	意識調査では挨拶の実施率が家庭内では65.2 %であるが校内では53.9 %であった。
学校関係者の 意見	・挨拶も笑顔もお互いが鏡になる。いい挨拶にはいい笑顔が返ってくる。 ・さわやか運動の参加については地域として学校から要請があれば協力できる。	
次年度へ 向けての 課 題	・生徒会、校紀委員会を中心に生徒主体のさわやか運動の充実を図る。 ・集会等を通して生徒に挨拶の重要性を説き、しっかりとした挨拶をするように促す。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成30年度 雄峰高等学校アクションプラン —No.4—		
重点項目	学校生活 【その2】	
重点課題	健康診断後の治療率向上	
現 状	・2日間の健康診断日の設定や受診勧奨の事前指導により受診率が高い。 (全体受診率 H29 92.5 %、H28 92.8 %) ・健康診断結果後の再受診率や治療率が低い。 (再受診率及び治療率 H29 8.65 %、H28 13.8 %) ・生活習慣の改善や健康診断後の治療の必要性に気付いていない生徒がいる。 また、その優先順位が低い。 ・不規則な生活習慣により、生徒の心身の健康を損なったり学校生活にも影響を及ぼしたりしている。	
達成目標	健康診断後の要治療生徒の全体再受診率及び治療率 15 %以上	
方 策	・健康教室や保健だよりなどで、生活習慣や病気の予防や早期発見、治療について取り上げ、健康管理への意識を高める。 ・保護者向けに受診や治療を促すプリントを配付する。 ・厚生委員会で健康に関するポスターを作成・掲示したり、電子掲示板で受診や治療を呼びかけたりする。 ・長期休業前や保護者懇談会時に治療カードを渡し、生徒の健康について共通理解を図り、治療を促す。 ・保護者懇談会や生徒面談等により生活環境や健康状態などについて実態を明らかにする。	
達 成 度	要治療生徒の全体再受診率及び治療率 8.2 % (健康診断の全体受診率は92.8 %)	
具体的な 取組状況	・保健だよりを毎月発行し、健康に関する情報や最新の知識などを提供し、健康の保持増進のための意識向上を図った。 ・健康教室では、たばこの健康への影響や、SNS が心身の健康に与える影響などについて、学校薬剤師や外部講師による講演を行った。 ・長期休業前や保護者懇談会時に、健康診断結果や治療カードを配付し、保護者と生徒の生活習慣や健康状態の共通理解を図るとともに、必要な場合は再受診や治療を促した。 ・電子掲示板やポスターで、健康診断受診や感染症予防など、自己健康管理を呼びかけた。	
評価	C	目標を達成することはできなかったが、昨年 (8.65 %) とほぼ同じ水準を維持した。
学校関係者の 意見	・目標値の15 %は低いと思ったが、結果の8.2 %はさらに低く感じる。内科は治療を放っておくと大きな被害となる。家庭の事情もあるが保護者へ何度もアプローチすることが重要ではないか。 ・生活困窮世帯が多いのではないかと。そのため治療に積極的になれないこともある。担任や養護教諭を通じて家庭環境を把握することが大切である。生活支援を受けている家庭の場合、医療機関の受診には手続きが必要となり、それが受診治療に繋がらないこともある。重症化しないように気をつけなければならない。 ・治療をできない生徒がどれほどいるか、少しでも手助けできないかと胸が痛む。雄峰高校の生徒にこそ未病予防に力を入れてほしい。笑顔が多ければ健康増進の大きな力となる。体内時計に合わせた規則正しい睡眠が大切である。	
次年度へ向けて の課題	・保護者や生徒への受診、治療の効果的な呼びかけ方について検討する。 ・年次や担任と連携して状況を共有し、保護者や生徒に受診や治療などを促す機会を多くする。 ・学校医や学校薬剤師を講師とした、健康管理に関する生徒対象の講演会を実施する。 ・効果的な取り組みについて実績のある高校と情報交換をする。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成30年度 雄峰高等学校アクションプラン —No.5—		
重点項目	進路支援	
重点課題	進路実現をめざす支援活動	
現 状	- 生徒の意識が卒業することだけに向きがちで、卒業後の進路まで考えさせる指導が必要である。 - 進路を決定する際に進路に関する知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識を向上させる必要がある。 - 進路志望に毎年ばらつきがあり、年間の一斉の進路指導が行いにくい。 - 進路意識、学力などに個人差があり、一斉の進路学習には工夫を要するため生徒の実態に応じた個別指導を行う必要がある。	
達成目標	年度末での進路先決定率 90 %以上 （就職に関しては志望が明確で就職活動を行う生徒を対象とする。 進学に関しては第一志望に限定しない。）	
方 策	- 進路希望調査(修得単位数の追記)などを通して早いうちから卒業後の進路について考えることにより受講登録などに反映させ、進路実現を行えるよう支援する。 - 外部講師による進路別講義や、卒業生による合格体験談の機会を増やし、進路意識の向上を図る。また、新規の進路別講座を行う。 - これまでの進路先一覧(合否結果)等のデータを、これからの進路指導に活用する。 - 大学入学共通テストや進学用新調査書に関する情報を収集する。	
達 成 度	H31.1/24 現在 3 課程：75.8 %（昼間：79.1 %、夜間：83.3 %、通信：64.3 %） *専攻科：40.7 %	
具体的な 取組状況	(株)高松メッキ 中小企業診断士 宮田幸知氏と卒業生 小柴由也氏による進路講話を就職教室として実施した。 - 北陸職業能力開発大学校 統括マネージャー 松岡等氏による進路講話『将来、理系進学を考えているみなさんへ』を実施した。 『ものづくり女子による出前講座』（県商工労働部主催、卒業生参加）を1・2年次生活文化科生徒を対象に実施した。 3 課程合同の進路研修（8/3,4 東京方面の大学等訪問）の研修内容を充実させた。 - 従来の取り組み(就職教室、労働法に関する講話など)の改善を図った。 - 専攻科就職講座（ハローワーク富山大学卒ジョブサポーター）を実施し、就業意識を高めるとともに就職活動のルールやポイント、面接のマナーについて学んだ。	
評 価	C	今年度は高校卒業程度認定試験での単位修得による卒業予定生徒や、進学から就職に進路変更する生徒が例年より多いことで進路決定が遅くなった。今後継続的に指導を行うため、年度末には進路先決定率が例年並みになる見込みである。
学校関係者の 意見	- 専攻科の就職は難しい面もあるが、支援を続けてほしい。 - 専攻科で学んだことを基に親の片腕となって自分たちの店を繁盛させることに全力を尽くすことは尊いことである。継続してほしい。 - 進路決定率のほかに就職後の定着率も鑑みてはどうか。	
次年度へ 向けての 課 題	- 生徒の実態に応じた個別指導の工夫、改良が必要である。 - 卒業生の進路先一覧(合否結果)や合格体験等のデータの活用法を工夫する。 - 大学入学共通テストや新進学用調査書に関する情報を収集する。 - 保護者を含めた早期の進路指導の充実を図り、高認による卒業予定者への指導法を研究する。 - 転編入生への適切な個別進学指導方法を検討する。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成30年度 雄峰高等学校アクションプラン —No.6—		
重点項目	特別活動	
重点課題	生徒が主体となる自主的な特別活動の推進	
現 状	・特別活動を効果的に行うための時間の確保が困難である。 ・生徒の多くは自主性に乏しく集団活動を苦手とし、学校行事の参加に消極的なため、参加形態や内容に工夫が必要である。 ・日程や校時の相違から、各課程間の交流の機会が極めて少ない。	
達成目標	学園祭への参加生徒の満足度 85 %以上	
方 策	・4課程合同の企画によって各課程間の相互理解を深めるとともに、多くの生徒が意欲的に取り組むことができるように、各課程の特色を活かすことを考慮する。 ・様々な企画の例示などから、自主的に活動しやすいような配慮を行い、個々の生徒が充実感や達成感を得やすい環境づくりに努める。 ・個々の心に残る学園祭となることを目指し、県民カレッジ富山地区センターとの連携、地域や校外の方々との交流を図る。 ・それぞれの活動における生徒一人一人の役割を明確にする。	
達 成 度	参加して満足できた 全体：81%（昼 79%・夜 64%・通 90%・専 89%）	
具体的な 取組状況	・課程間および県民カレッジ富山地区センターとの相互理解と交流を深めるため、教員・生徒合同の実行委員会を開催し企画の検討を重ねた。 ・意識を高めるために、恒例のバルーンゲート作製とともに、新しい試みとしてメッセージボードへの記入を全校生徒に依頼した。 ・メッセージボードは来校者も自由に記入できるものとし、校外の方々との交流を図れるように工夫した。 ・ステージ発表の進行係に限らず、運営に係わるスタッフを公募するなど、多くの生徒が自主的に活動できる機会を広げた。	
評 価	C	・全体としての満足度は昨年と同様の値となった。目標値には届かなかったが、高い満足度がうかがえる。 ・昼間以外の課程では5ポイント程度の変動が見られたが、調査母体数が小さいことから大きな変動ではないと考えられる。 ・専攻科における企画は、報道関係による宣伝効果もあって、本年度も大盛況となり、生徒は高い満足度を得ている。
学校関係者の 意見	・学園祭の来場者が約3割増え、素晴らしいと感じた。県民カレッジ富山地区センターとの合同開催で相乗効果がある。フレンチレストランは本年度も大盛況で、報道効果もあるが地域の行事として定着してきている。満足度 90%以上を目指してほしい。 ・体育大会は、少々もの足りないように感じた。 ・レインボースティックは城址公園のカラスの害を見事に防いでいる。設置の有無で大きな違いが見られたことについて、市民からも連絡が入っている。	
次年度へ 向けての 課 題	・生徒の自主的な活動が成就感、達成感そして満足度を高めていることから、行事に対して準備段階を含めた活動形態の更なる工夫について研究する。 ・ボランティア活動をいかに推進するか検討する。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）